

平成 29 年度第 1 回宇都宮市冒険活動運営協議会会議議事録

○日時 平成 29 年 6 月 28 日 (水) 9:30~11:00

○会場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

○出席者氏名

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------|
| ・木村 茂委員 (市小学校長会) | ・黒後 洋委員 (宇都宮大学) <会長> |
| ・黒川 浩委員 (市中学校長会) <副会長> | ・平野 勝委員 (篠井地区ゆたかなまちづくり協議会) |
| ・田辺 陽子委員 (市PTA連合会) | ・瀬田 正幸委員 (県林業センター) |
| ・五十嵐市郎委員 (市子ども会連合会) | ・坂内 剛至委員 (有限株式会社ネイチャープラネット) |
| ・櫻井 政義委員 (市ボーイスカウト・ガールスカウト連絡協議会) | ・橋本 恵子委員 (公募) |
| ・古口 倭子委員 (県キャンプ協会) | ・寺島 玄委員 (公募) |

(事務局) 加藤 憲一郎課長補佐, 狐塚 章一所長, 村山 弘樹副所長, 須田 浩太郎指導主事, 小林 真理指導主事

○欠席者氏名

北條 成男委員 (宇都宮市レクリエーション協会)

○公開 (傍聴者の数 0人)

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 委員紹介 役員の選出
- 4 議 題

(1) 報告事項

- ① 平成 28 年度事業報告について (ア学校受入事業, イ主催事業, ウ一般受け入れ事業)

事務局 : (資料にそって説明)

会長 : ご意見, ご質問はあるか。

寺島委員 : けがや保健室の利用状況は, 前年や例年と比べてどうか。

事務局 : 今年度は 787 名保健室を利用している。27 年度は 594 名, 26 年度は 919 名であった。27 年度と比べると多いが, 26 年度と比べると少ないといった状況である。

会長 : 昨年も同様の質問があった。2 年前くらいまでの提示があると, 比較がしやすいのではないか。昨年と比べて今年度目立った例はあるか。26 年度と比べると減っているということか。

事務局 : 26 年度と比べると利用は減っているが, 一番多い例は, 虫刺されである。虫が出てくる 5~7 月に多い。活動中は長袖長ズボンの着用を学校にお願いしているが, 暑くなってくると, 子どもたちが脱いでしまったり, 足首を出している子が多かったりし, 刺されてしまっている。昨年は 12 月も虫刺されの症例が多いが, 気温が高い日があり, 子どもたちが薄着になったところ多数刺されてしまった。また, 捻挫は, 中学生が長時間の登山を行う 5~7 月に多い。登山だけでなく, わんぱく広場等で過ごしている際に捻挫してしまうこともある。

平野委員 : 活動範囲の中で, スズメバチ等の巣などはみられるのか。

事務局 : 園内にスズメバチの巣はないが, 秋頃登山道にできることがある。職員が下見を行う等の対応をしている。今頃の時期は, 女王蜂が飛来する時期だが, 子どもたちには, ハチが近くにきたときの対応等指導している。また, 登山に同行する職員がスプレーを携帯しているなどの対応をしている。

瀬田委員 : ペットボトルなどを使った簡易誘引装置などでの駆除は行っていないのか。

事務局 : 一昨年, 園内何箇所かに設置していた。

会長 : その他いかがか。

橋本委員 : ニュースポーツなどでアリーナを使用していると思うが, ニュースで体育館の床材による大きな怪我の報道がある。そういった事例はないのか。アリーナの点検を行うなど何か対応はしているのか。

会長 : 床板がはがれて刺さってしまった事例だが, いかがか。

事務局 : 定期的に点検を行っている。すべりやすいところもあるが, 年に数回, 床にワックスがけを行ったり, 貸し出す際, 利用者に注意喚起を行ったりしている。

会長 : ほんのわずかな床のはがれからそういった事例が起こってしまう。バレーボールの例

は、20 数センチ足に入ってしまう大怪我になってしまったようだ。例えば、バレーボールやバドミントンの支柱によるほんのちょっとした傷から床板が大きくはがれてしまうことがある。先日も中学生が5 cmほど刺さり怪我をしてしまった。予算には限りがあるが、補修を丁寧にやっていく必要がある。水拭きによる劣化も原因の一つとなる。安全面十分考慮して対応お願いしたい。

- 坂内委員：今年度起きた食中毒の件だが、食材の特定はできたのか。
- 会長：報告だとできなかったようだが、いかがか。
- 事務局：保健所により原因菌は、エシユリキア・アベルティイと断定したが、原因食の特定はできなかった。期間内にとった食品のいずれかという保健所の調査結果であった。
- 会長：どこから持ち込まれた食品かは分らなかったということか。
- 事務局：そうである。レストランの検食の保存方法に問題があり、特定はできなかった。
- 会長：再開に向けて職員の試食も行ったとのことである。その他いかがか。
- 古口委員：登山の際の捻挫が多いとの説明があった。登山の際、私たちも足元が滑らない靴や登山靴などをお願いしている。下るときに怪我をする場合が多いが、足に合っていない靴を履いていたり、簡易的な靴で登っていたりする。自分も登っていて感じるのだが足首の固定が大切である。利用者に登山用の靴のよびかけも必要ではないか。
- 事務局：学校には、履き慣れた運動靴をお願いしている。登山靴の用意は難しいが、登山に適した靴をお願いしている。
- 会長：ハイカット、ミドルカットの靴であれば、かなり捻挫を防げる。くるぶしまでの普通の運動靴だと難しく、大学生でもすぐ捻挫してしまう。しかし、学校に用意をお願いするのは、難しいであろう。
- 田辺委員：怪我が5,6月に多い理由として、中学生の登山によるものとの説明があったが、9,10月にも中学生の利用がある中で、春に怪我が多いと思う。春に学年が上がって比較的早い時期の子どもたちと、秋ごろの子どもたちとの成長の違いなどがあるのか教えていただきたい。
- 会長：活動の種類によって影響がかなり変わってくるのではないか。実感としてはいかがか。
- 事務局：中学に入学したばかりの子どもたちと比べて、部活を行ってきた秋頃の子供たちでは、体力が大きく違う。春先に比べて捻挫が少なくなる要因の一つと考えられる。
- 会長：学校のスポーツ活動では、怪我とは異なるが、障害として小1、中1、高1と環境の変化によるものは大きい。
- 黒川委員：要因はこれとは言えない部分はあるが、環境が変わってという部分はあると思われる。中学校に入って時間が経過すれば、体力の面では、部活などでついてくる。同じ条件だとするとやはり環境の変化によるものは大きい。活動を行う上で、多少の怪我はやむを得ない部分もあると思う。
- 平野委員：自然体験活動が少なくなっている気がする。活動の内容は、学校が主体となって決めているのか。また、二泊三日の中で、いくつぐらいの活動を行っているのか。
- 事務局：活動は、プログラム相談の折に学校と相談して決めている。活動は、三日間の中で午前・午後と活動を行って5つぐらい実施している。中学校で登山を実施すると一日を通しての活動となるので4つとなる。その中で火を扱う活動の野外炊飯や野外おやつ作り、杉板焼きなどや、歩く活動を入れていただいている。ネイチャーゲームは小学校が実施することが多い。また、森の句会では、ぼうけん木のぼりと組み合わせて実施している。スターウォッチングでは、センターハウス付近で実施したり、ロッジに戻る際に観察をしたりしている。
- 会長：一般利用者のアンケートについては、毎年似た意見で、より便利にと要望があるが、なかなか難しいか。
- 事務局：一般利用者の要望については、改善できる部分は改善している。センターハウスからロッジや炊飯場が遠いことは利用申込の際に説明しているが、どうしても移動が大変だという意見はある。
- 寺島委員：「有料でも良いのでゴミを処理してほしい」という意見があるが、自家用車でなく、公共交通機関で来る方もいると思う。原則は持ち帰りが基本だが、そういった方への配慮があると良いのではないか。
- 事務局：炊飯場の利用する方は、レストランで食材を購入いただくことが原則だが、その場合、ゴミの引き取りはレストランで行っている。また、持ち込みの食材でやる場合には、生ゴミについては、こちらで処理を行い、ほかのゴミは持ち帰りいただいている。なかなかゴミの引き取りをすべてこちらで行うのは難しいが、公共交通機関の利用の場合など、相談の上、随時対応している。
- 木村委員：学校利用計画の一年間の割り振りについてだが、中学校は11月中頃までにおさまっているが、小学校は、3月の卒業式直前まで入っている。冬季も入れざるを得ないと思う

- が、地域学校園等まとめ方を工夫して組むことで、改善などはできないのか。
- 事務局： 4月中旬から3月初旬まで一年間を通して学校利用がある。小中合わせて93校を2つのグループに分けて前期と後期でローテーションを行っている。また、グループ内をさらに4つのブロックに分けてローテーションしている。この案をもとに学校利用調整委員会において小中学校から4名ずつの校長先生に利用調整委員として検討いただいている。その後、各校に示した案をもとに、委員の先生方と各校で調整の上、予定を組んでいる。
- 会長
木村委員： 各家庭でも理解があると冬の実施も良いとの意見もある。
小学校は冒険活動教室の対象学年が5年生だが、5年生は卒業式準備等を含めて学校の中心となって動く。ちょうど本校が今年度3月の最後の実施なのだが、なかなかつらい所である。もし、今後可能であれば3月の実施について配慮があるとよい。

(2) 協議事項

① 平成29年度事業計画について（ア 学校受入事業、イ 主催事業、ウ一般受入事業）

- 事務局： (資料にそって説明)
- 会長： 平成29年度の事業計画についてご意見、ご質問等はないか。
- 会長： 今年度から一般利用の使用料が変わったということか。
- 事務局： リーダーバンクの料金が上がっている。一人あたり3時間で5,000円になっている。
- 寺島委員： アンケートのマークシートが「まったく思わない」「あまり思わない」「少し思う」「とても思う」との順番になっているが、順序の意図はあるのか。行政のアンケートでは、多くの場合、「とても思う」からの配置になっている場合が多い気がする。統計学的なことが分からないが、順序で結果のずれがあるのではないか。記入者の心理的なものもあるのでは。5年間継続して研究していくのであれば、修正等の検討も必要ではないか。
- 事務局： 指導助言者の淑徳大学の永井先生、東洋大学の平野先生の専門が統計・保健体育であり、昨年度の予備調査の実施をもとに助言いただき、アンケート項目の内容、並び方等を作成している。
- 会長： 1から5という並び方と5から1という並び方では、受け取る側の印象は異なるのではないか。アンケートの並び方で、真ん中「どちらでもない」がないことは、質問者の意図が含まれているかと思う。
- 黒川委員： アンケートで大切なのは、間隔ではないか。等間隔になっていることが重要であると思う。また、真ん中の項目を置くか置かないかは重要であると思う。「あまり思わない」「少し思う」のどちらかを選ぶしかない。ある場合と結果が大きく変わってくるのでは。
- 会長： アンケートでは、多くの人数になると、ほんの少しの差でも有意があるという結果になる。
- 会長： ぜひ、アンケートをまとめた結果を次年度に教えてほしい。2年前の市の協議会で質問があった。不登校の子どもたちに対して非常に効果があったと報告があった際に、市教委の先生から、それはどういった効果があるのか質問があった。市に報告はしていると思うが、周知されていないのかもしれない。
- 五十嵐委員： 利用状況一覧をみると延べ人数は、例年4万人台だが、少しずつ減ってきているように思う。学校利用により利用人数の確保はできると思うが、今後子どもの数が減っていく中で、利用者の確保はどうしていくのか。センターができて20年が経ち、冒険活動教室に参加した子どもたちが保護者になって子どもが冒険活動教室に参加するようになってきているが、子ども会では、「一般の人が使えると知らなかった」という保護者の声も多い。そういった保護者やその他の方たちに対して、もっとPRの必要があるのではないか。ゆるキャラなど何かキャラクターを作るといった事も一つの方法かと思う。職員で考えてもよいし、一般市民に公募する方法もある。宇都宮にもロゴマークがあるが、そういったシンボリックなものを作るなどアピールの方法を考えてみたらどうか。
- 会長： キャラクターを作るのは、大変お金がかかる。宇都宮大学では、かなり経費がかかったが、そう効果が得られなかった。大学では市を利用させていただき「住めば愉快だ宇都宮」をもとにしたロゴマークを作り、活用している。「行けば〇〇冒活」のように冒険センターでも作ってはどうか。
- 所長： ロゴマークを作るなど、PRの案として大変すばらしい。冒険センターでもPRをしているがなかなか進まない現状である。今年度、宇都宮ブリツェンと共催で、「サイクルピクニック」のエイドステーションとして利用していただき、参加者への資料にパンフレット入れて配布したり、参加者へネイチャーゲームの提供を行ったりした。今年度初めて実施したが、こういった他団体との連携でもPRしていきたい。先ほど提案のあったロゴマークの案も含め、いろいろな方法でPRを考えていきたい

- 会長： ブレックスや宇都宮ブリッツェン、市の都市魅力創造課との連携は、よいのではないかな。うまくリンクできるものがあればぜひ実施を。
- 会長： 8月の英語研修はどんなものか。
- 事務局： 市教育委員会による英語教諭のための研修である。宿泊を通して英語で会話を行いながら実施し、3年間で全市中学校の英語教諭が本研修を受ける予定である。
- 会長： その他ご意見等あるか。
- 木村委員： 中学校から小学校に異動して2年目だが、小学生の子どもたちに冒険活動教室の何が一番楽しいか尋ねると、皆、声をそろえて宿泊が楽しいと答える。友達と一緒に泊まることが子どもたちにとって一番楽しいことなのだが、2泊3日の中でいろいろ盛り込んでしまい、友達とゆっくり過ごせる時間を減らしてしまっているのではないかな。設立当初は、子どもたちも先生もゆっくりと過ごせる場所が冒険ではなかったか。活動のねらいを絞って計画することも必要である。修学旅行では、一部屋に2,3人ずつの部屋割り、集団で泊まるのは、この冒険活動教室だけである。本当に貴重な機会であり、集団で仲間たちと過ごすことができる子どもたちにとって一番の喜びを大切にしなければならないかな。先ほどの不登校の件だが、どの学校も不登校の子どもたちを抱えている。本校の例では、不登校生活であった児童が冒険活動教室に参加できた。親が車で送ってきて1日目の活動に参加して夜帰宅し、また2日目に参加することができた。宿泊することはできなかったが、近くに施設あるからこそ皆と一緒に体験ができた。また、登山で父親と一緒に登った例もある。学校の授業では、なかなか親と一緒にやるということは難しいが、ここでは、親と一緒にチャレンジすることができ、不登校解消のきっかけになっている。教育長は一人でも不登校を減らしたいと述べているが、冒険活動教室はとても良い機会となると思う。
- 五十嵐委員： 安全面などについて尋ねたい。イニシアティブゲームのターザンロープが道の真ん中にぶらさがっている。前を通った子がロープにさわると、後ろの子の頭に当たってしまったことがあった。どうしても真ん中にあるので、横によけると戻ってきってしまうのだが、何かしるなどの対応はないかな。また、第2駐車場は、現在かなり広い範囲で立ち入り禁止となっているが、いつごろ対応が完了するのか。最後に登山道で現在通行禁止の場所があり、通行できる榛名山への登山ルートは、低学年の子どもたちには下りが難しい。国の事業なので立ち入れない部分はあると思うが、いつから使えるようになるのかな、教えていただきたい。
- 課長補佐： ご質問のあった土壌の鉛の件について説明する。第2駐車場付近から検出された鉛については、利用者の皆様の安全安心を確保するために区域を指定して立ち入り禁止としている。6月の議会で、対策工事の費用を予算に計上している。工事の内容としては、鉛を多く含む部分については、表層から75cmを掘削して園外に搬出し、処分する。鉛が少ない部分については、一箇所に集積し、その上をアスファルト覆い固め、引き続き、園の第2駐車場として使えるよう対策をとる。対策工事の内容については、有識者の意見を聞き、問題ないという意見をいただいている。今後のスケジュールとしては、7～8月にかけて工事を発注し、9月に着工、数ヶ月の工事期間を経て2月に使用開始となる。
- 事務局： ターザンロープの件については、窓口にて利用者への案内の際に注意喚起を行っている。学校で活動に入るときには、使い方の指導を行っている。その場を通ったときについては、特に看板などによる使用の案内はないため、自由に使っている状況である。ロープを固定しておくか看板等を立てるなど対策については検討して安全に使えるよう対応していきたい。国有林については現在まだ伐採は始まっていないが、期間中に通行はできない。今度利用の際に情報として状況は案内していく。
- 会長： 事務局からその他協議事項はあるか。
- 事務局： 教育効果の測定については、すでにご質問があったので、省かせていただく。食中毒についてご説明する。(資料に沿って説明。)
- 会長： その他よろしいか。では、これで閉会とする。